

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3290400039
法人名	医療法人 エスポアール出雲クリニック
事業所名	認知症高齢者 グループホームおちらと
所在地 (電話番号)	鳥根県出雲市小山町362-1 (電 話) 0853-25-3968
評価機関名	(有)保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1
訪問調査日	平成21年8月6日

【情報提供票より】(21 年 7 月 2 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 9 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	常勤 人, 非常勤 人, 常勤換算 人

(2)建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	鉄骨	造り
	3階建ての	階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	600 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり			円

(4)利用者の概要(7 月 2 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 81.2 歳	最低	78 歳	最高	86 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	中央病院、深田医院、白枝内科、マーメレード歯科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人エスポアール出雲クリニックの介護施設の一つとして、このグループホームがある。開設して3年になる。3階建ての2階部分に小規模多機能支援事業所と、グループホームが併設されており、双方の玄関のドアはいつも開放されており、両事業所の利用者の方が自由に行き来しておられる。職員の年齢層は、比較的若く、活気がある。母体である医療法人がしっかりバックアップしている。それはグループホームや利用者・家族にとって安心して、頼れる存在となっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題3項目のうち、いろいろと改善に向け努力はされている。うち2項目は改善中となっているので、引き続き努力していただきたい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、職員は充分理解し、全員で自己評価を行い、リーダーが一部にまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回、定期的に開催されているが、施設側からの一方的な報告にならないように配慮していただき、時にはテーマを決めて話し合ってみるのも良いのではないだろうか。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の方は、お世話になっているという気持ちから、あまり苦情や意見は言わない様子がうかがえるが、家族アンケートには希望・要望も書かれていた事から、家族の意見を汲み上げる仕組みが必要と思います。家族との連絡や相談の仕組みが確立されておれば、苦情や不満も相談という形になるのではないのでしょうか。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	法人全体としての行事等、いろいろと努力されているがグループホーム独自のものはあまりないように感じられた。グループホーム独自の交流を進めていくのもひとつの方法と考えます。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「物忘れを認め合い、仲間同士気楽に過ごしてその場その場を楽しみ、感動し心豊かに意義のある時を過ごせる場の提供」という独自の理念をつくっている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念のプロセスとして利用者と職員が集うプログラムを日々実践している。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	コミュニティーセンター、小学校、地元の催しに参加し、交流に勤めていることが伺えた。	○	近隣の人達との関係作りについて、グループホームとして独自の交流を考えてみてよいではないでしょうか。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員で行っている。前年度の改善項目(3つ)については1項目のみが改善されている。残り2つについては現在改善中である		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、定期的に関催されていて、家族の代表や地域包括・行政関係者、地域の代表者等の出席者も多いが、施設側からの報告事項が多く見受けられ、他の参加者の意見等の記述が少ないように感じられた。		グループホームの連絡帳にも議事録を載せ、職員にも回覧する事で、情報の周知にもつながるのではないのでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム連絡協議会に市町村も参加し、勉強会や研修会を通して、サービスの質の確保・向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1回のお便りを出している。メールで報告する方(2名)もおられ、個々に合わせた報告がなされている		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会もあるが、あまり苦情等意見、要望はあがっていないとの事。意見や要望があれば、運営に反映できるように努められていることが伺えた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年間に異動は同法人の小規模から1名、新任3名あり、利用者へのダメージを防ぐ配慮している。お便りで異動のあった職員の紹介もなされていた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県などが行う研修の案内・内容に応じて、運営者や管理者が職員のスキルや状況を見ながら、声かけし研修をうける機会を確保している。職員が自主的に参加したい研修等に関しては、勤務表等配慮し研修を受けられるようにしている。研修参加後の法人内伝達講習もなされている。職員の年間研修計画は確認できなかった。	○	法人や事業所は職員の年間研修計画を策定し、働きながらのトレーニングや職員の段階に応じて育成するための計画をたてられるとよいでしょう。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に所属しているが相互研修はまだない様子。勉強会に留まっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービスや小規模多機能からの入所者(9名中5名)もあり、いきなりという入所者はあまりなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に利用者は馴染めており、家族等も安心してサービスの利用開始となっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に対し皆穏やかに接し、人生の先輩である利用者の方に配慮して、喜怒哀楽をともにしケアに邁進しており、支えあう関係を築いていることが伺えた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当の職員が中心となり、マンツーマンで話を聞く時間を多く持っている。一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努められている。困難時には本人本位に検討し、希望や意向がわかるまで、職員は暖かく見守りながらケアに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は毎月1回見直されている。会議は月に2回開催し、チームでの作成をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態変化やご家族、利用者等の要望にあわせて、定期的または随時見直しがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じ て、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援 をしている	通院・美容院等の必要な時は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得 られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援し ている	家族の方の希望でかかりつけ医への受診、付き添いも 柔軟に対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、 できるだけ早い段階から本人や家族等ならび にかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員 で方針を共有している	重度化した場合やターミナルのあり方についての法人 の方針は決められおり、家族の同意書も確認できた。 職員の研修(死生観)も行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるよ うな言葉かけや対応、記録等の個人情報の取 り扱いをしていない	トイレへの誘導もさりげなく行われていた。記録のとり方 や職員の入室についても、誇りやプライバシーに配慮 がなされていることが確認できた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではな く、一人ひとりのペースを大切にし、その日 をどのように過ごしたいか、希望にそって支 援している	利用者の方は各々のペースでゆったりと暮らしておら れた。将棋をしたい方、隣の小規模へ遊びに行く方な ど、思い思いに過ごされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は高齢者向きの軟らかいご飯とおかずが提供されていて、殆どの方が完食しておられた。朝食と夕食は職員の配置を多くし、ホームで作られている。昼食に関しては、職員が利用者一人ひとりとゆっくり過ごせるようにと、法人の他施設で作られたおかずにもホームでご飯を炊いている。食事の準備や後片付けは個々の能力にあわせ、職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、毎日の入浴が出来るように支援されている。朝風呂や夜間風呂にも対応しておられた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームの建物の裏側に畑があり、希望する利用者の気晴らしとなっている。また、職員が将棋の好きな方の相手をしたりと楽しみごとや気晴らしの支援をしている。植木や花の水やり、生け花、掃除、ゴミ出し等、いろいろと出来ることを上手に引き出しておられる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、畑仕事、ドライブ等戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの玄関は一日中開けられており、小規模の利用者も自由に遊びに訪れる。ホームの入っている建物のエレベーターや階段の鍵かけはされていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練(日中、夜間想定)も実施していて、備蓄も(食料品、水)3日分ある事を確認できた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養、水分量とも確保できるよう努められており、記録も確認できた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や畳のスペース等共有空間にはいつも利用者がくつろいでおり、不快な音もなく、遮光も程よい。季節感を感じさせる七夕飾りがあり、利用者の外出時の写真や読まれた俳句、作品等が飾られていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	おふたりの方の居室を拝見したがいずれも、気持ちよく整えられており、仏壇やご家族の写真などが飾られていた。利用者の希望で携帯電話も置かれていた。本人が安心して、居心地よく過ごせるよう工夫をしておられた。		